



一特集「いだてん」

- ◎水泳日本の父・田畠政治 氏
- ◎東京オリンピックメモリアルギャラリー
- ◎いだてんスペシャルインタビュー 奥谷 亘 氏
- ◎郷土史跡めぐり 天靈山空慧禪寺
- ◎葉画家 群馬直美 氏
- ◎お客様紹介 (株)ねぎしフードサービス 様
- ◎名瀑探訪 乙女の滝(長野県佐久穂町)

作品名「曼珠沙華・朝露」
須藤和之 画 サイズF6号
ヤマトビオトープ園に咲く曼珠沙華が
朝露に濡れている姿を描く

名瀑探訪

乙女の滝

長野県佐久穂町

「乙女の滝」は森林に囲まれたこや古谷渓谷の中にあります。ぬく抜いがわ井川の水流が巨石をはさみ三筋に分かれて約九メートル落下し、水しぶきをあげています。滝つぼの近くまでいくことができ、夏は涼を求めて観光客が訪れます。滝から三百メートルほど離れた道路脇に駐車場があり、渓流沿いの遊歩道を5分ほど歩きます。紅葉の季節も素晴らしい景観が出迎えてくれることでしょう。

乙女の滝 ACCESS

所在地:長野県南佐久郡佐久穂町大字大日向



乙女の滝

周辺の見どころ

龍岡城五稜郭は、函館五稜郭とともに日本に二つしかない星型稜堡をもつ洋式城郭です。同城は江戸時代末期に田野口藩主松平のりかた乗謨が元治元年(1864)に田野口藩新陣屋として着工し、慶應3年(1867)に竣工しました。フランスのボーヴアン将軍が考案したといわれる稜堡式築城法によるもので、突角部に砲座を設けて、各稜堡から敵に対して死角を無くして攻撃する十字砲火が可能になっています。明治5年(1872)に城は取り壊されました。堀と土塁、建物の一部「お台所」が城内に残されています。昭和9年(1934)5月1日に国史跡として指定されています。隣接する「五稜郭 あいの館」では、同城の資料を展示しています。



屈曲する水堀



龍岡城五稜郭の俯瞰図

五稜郭 あいの館 ACCESS
住所:長野県佐久市田口2975-1
開館時間 9時30分～16時
休館日 毎週火曜日、年末年始
電話 0267-82-0230



乙女の滝

和'S (わづやまと) YAMATO 秋号 (第42号) 2019

和'S YAMATO 2019 秋号 / 2019年9月発行
発行:株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118
TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

建設プロダクト 

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター
ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/



田烟政治氏

(たばた まさじ)

2019年NHK大河ドラマ「いだてん」～東京オリンピック～後半の主人公は田畠政治氏。終戦直後からスボーツ振興活動を開始し、昭和三九年（1964）の東京オリンピック開催に大きな役割を果たした。田畠氏の活躍と、東京五輪開催に至るまでの経緯や東京五輪のトピックスを紹介する。

戦後直ちに競技復活のため動き出す

昭和二〇年（一九四五）八月一五日、数年間続いた第二次世界大戦が終了し、社会は戦時統制が解かれ、自由にスポーツを楽しめる時代になった。田畠政治は、戦前から活動していた水泳の全国団体「大日本水上競技連盟」を「日本水泳連盟」に名称変更し、同年一〇月に理事長に就任した。また、戦争中は軍の統制下にあつた「大日本体育協会」は昭和二年（一九四六）に民間団体の「日本体育協会」となり、田畠は常務理事に就任、日本がオリンピックに出場できるようにするために尽力する。戦時中に日本各競技団体は国際競技連盟から除名処分を受けており、除名撤回されなければオリンピック出場はできない状況だつた。

なり、昭和二三年（一九四八）にロンドンで再開することが決定していた。田畠は日本がロンドン大会に出場できるよう国際競技連盟に対し除名処分撤回を嘆願しようとした。しかし、当時の日本はGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の統治下にあり、外国との折衝はGHQを介して行わなければならず、陳情は田畠の思惑通りに進まなかつた。何とか水泳だけでも出場できないかと考えをめぐらし、国際水泳連盟の除名撤回ができないならば、IOCから招待を受けて参加する方法を模索する。IOC委員の中には、日本の参加を容認する空氣があつたものの、開催国イギリスが難色を示す。戦争中に日本軍と戦つた遺恨があり、IOCはイギリスに

戦後初のオリンピックには参加できなかつたものの、日本では昭和二二年（一九四六年）にプロ野球や東京六大学野球が復活し、夏には兵庫県宝塚市で第回国民体育大会が開催された（冬大会は青森県八戸市で開催）。翌年には箱根駅伝が復活した。国民のスポーツへの関心が高まるのをみた田畠は、ロンドンオリンピックで行われる水泳競技と同日程で、全日本水上選手権大会を開催することに決めた。ロンドンオリンピックに出席する選手よりも速いタイムが出れば、日本の競泳が国際舞台に復帰することに弾みがつくが、その逆なら復帰は遠のいてしまうだろう。

昭和二二年（一九四七）に、古橋広之進（日本大学）は日本選手権の四〇〇m

上回っている。昭和二三年にロンドンオリ
ンピックと同時に開催された全日本水上
選手権大会で、古橋は世界記録を更新
し、「水泳王国日本」は健在だったことを
世界に示した。古橋は「フジヤマのトビウ
オ」と呼ばれ、アメリカで開催された大会
でも自身の記録を更新して優勝する快
挙を成し遂げた。



田畠は政府や東京都を動かして東京五輪誘致を成功させた立役者だった。昭和36年に東京五輪組織委員会事務総長に就任するものの、翌年に解任されてしまう。組織委内の対立があったためと推測されているが、五輪を愛すればこそ、不本意な処遇を受けながらも観客席から日本選手団に拍手を送った。その後、田畠はスポーツ界に復帰し、日本のスポーツ振興に尽力する。



東京五輪招致決定を喜ぶ関係者(日刊スポーツ/アフロ)

五輪への復帰を果たすも、水泳の強化が課題に

昭和二七年（一九五二）にヘルシンキオリンピック大会が開かれ、日本は念願かなって出場することができた。しかし、競泳で金メダルは無く、期待の古橋は赤痢の後遺症で実力を発揮できず八位に終わるという残念な結果に終わった。

オリンピック大会が開催され、日本の獲得メダル数は金四個、銀一〇個、銅五個と前回よりも大幅に増えたが、競泳の金メダルは一個にとどまった。昭和三四年（一九五九）には五年後の東京オリンピック大会の開催が決定した。

翌年の昭和三五年（一九六〇）のローマ大会で、日本の合計メダル獲得数は前回大会よりも一個少なく、競泳は銀二個、銅一個と振るわなかつた。この時代のオリンピックは、ソ連など共産主義の国々が国家的な戦略でメダル獲得に取り組んでおり、日本は劣勢に立たされていた。四年後の東京オリンピックでは、日本人選手のメダル獲得数が大きく注目されるとから、メダルの獲れる競技のレベルアップと選手の育成が喫緊の課題だった。



代々木第二体育館



東京オリンピックの開会式が行われた国立競技場

「フジヤマのトビウオ」
登場で期待が高まる

東京オリンピックメモリアルギャラリー

1964年の第18回オリンピック東京大会を中心に、オリンピックの貴重な資料を展示しています。



開会式の紹介パネル*

■開館時間：9時30分～17時 入場無料

■休館日：第1・3月曜日（祝日の場合は翌火曜日）

■年末年始：12月31日～1月2日

※休館日は変更になることがありますので、

詳細はお問い合わせください。

※団体でのご来館は事前にご連絡ください。

〈問い合わせ先〉

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

駒沢オリンピック公園総合運動場

〒154-0013 東京都世田谷区駒沢公園1-1 TEL: 03-3421-6199



2020年東京オリンピック・パラリンピックの紹介*



1964年オリンピック競技種目の紹介*



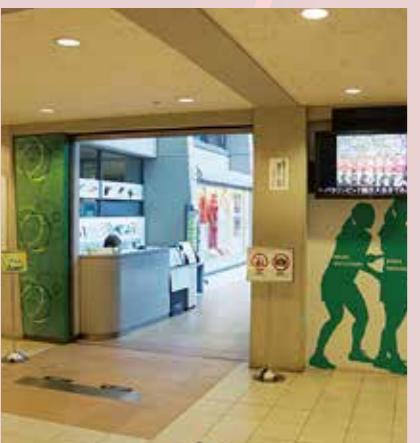
公式ポスターは4種類で、シンプルなデザインのものと、当時としては珍しい写真を使用したポスターで話題となつた*



開会式、閉会式の映像、競技のハイライトシーン映像*



1964年東京オリンピックのブレザー、トレーニングユニホーム、金・銀・銅メダルなど思い出の品々*



ギャラリーの入り口*



実際の高さが体感できる壁面*



競技用具の重さや大きさを体感。
写真は砲丸投げ*



1:金・銀・銅メダル。金メダルは純銀に金メッキを施している* 2:聖火ランナーのトーチ等、歴史に残る品々*
3:世界記録で優勝したウェイトリフティングの三宅選手* 4:「東洋の魔女」と呼ばれた日本女子バレーボールチーム
は、ポーランド戦で1セットを落とした他はすべての試合をストレート勝ちした。決勝戦が行われた駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場では、ソ連との決勝戦が行われた*
(㈱ヤマト東京支店は、2017年に同球技場の建替え工事を施工しました)

昭和三九年（一九六四）一〇月一〇日、東京オリンピックの開会式が開催された。前日までの雨はやみ、雲つない快晴のもと、九四カ国、約七千人の選手が入場行進した。天皇陛下の開会宣言、五輪旗の掲揚、聖火の入場と点火、選手宣誓と続き、自衛隊のジェット機が上空に五輪を描き、式典は大成功となつた。競技では、ウェイトリフティングの三宅選手が日本第一号の金メダルを獲得し、体操五個、レスリング五個、柔道三個、ボクシング一個、女子バレー一個と合計一六個の金メダルを量産した。しかし、田畠が期待した水泳は水泳日本の個と振るわず、五輪後に田畠は水泳日本の栄光を取り戻すため尽力することを誓うのであった。

（取材と文 木下直也）

【参考文献】
「田畠政治五輪一筋」田畠政治を顕彰する会浜松発行
「オリンピック全大会」朝日新聞出版発行



東京五輪の日本選手団公式トレーニングユニホーム。当時は「NIPPON」と表記されていた。
現在は「JAPAN」表記となる*



閉会式。日本選手団のあとを自由に歩く各国の選手たち。人種や国籍にとらわれずに交流する姿が共感を呼んだ*

『田畠政治と金栗四三とその時代』に関する主な出来事

- 1891年(明治24) 8月、金栗四三、熊本県玉名郡(現・和水町)に誕生。
- 1898年(明治31) 12月、田畠政治、静岡県浜松町(現・浜松市)に誕生。
- 1911年(明治44) 田畠、浜松中学校に入学。水泳部に入部。
- 1912年(明治45) 金栗、三島弥彦とともに日本人としてオリンピック初出場。 第5回ストックホルム大会開催。日本初参加。
- 1914年(大正3) 金栗、春野スヤと結婚。 田畠、病気のため水泳選手を断念。 第一次世界大戦勃発。
- 1917年(大正6) 金栗、日本初の駅伝「東海道駅伝競走」開催に協力。選手としても参加。
- 1920年(大正9) 金栗、仲間らと箱根駅伝を発案し初開催。 金栗、アントワープ大会に出場し16位。
第7回アントワープ大会で、日本人初のメダル獲得(テニスで銀)
- 1922年(大正11) 金栗、仲間と樺太(当時)一東京間を20日間で走破。
- 1923年(大正12) 関東大震災。
- 1924年(大正13) 金栗、パリ大会に出場するが棄権。第一線から引退。 田畠、東京帝国大学卒業。朝日新聞社に入社。
第8回パリ大会開催。
- 1928年(昭和3) 田畠、アムステルダム大会の金メダリストなど世界の一流選手を招き、国際水上大会を開催。
第9回アムステルダム大会で初の金メダル獲得。(陸上三段跳)
- 1932年(昭和7) 田畠、ロサンゼルス大会に水泳チームの総監督として参加。
第10回ロサンゼルス大会で日本水泳陣がメダル12個を獲得。
- 1936年(昭和11) 田畠、ベルリン大会で日本選手団副団長を務める。
1940年の第12回東京大会開催が決定。 第11回ベルリン大会で水泳の前畠秀子が女子初の金メダル獲得。
- 1937年(昭和12) 田畠、東京オリンピック組織委員会の準備委員に就任。 日中戦争勃発。
- 1938年(昭和13) 5月、嘉納治五郎死去(享年77歳) 7月、日本は東京大会開催返上を決定。
- 1939年(昭和14) 第二次世界大戦勃発。
- 1944年(昭和19) 第13回ロンドン大会、第二次世界大戦により中止。
- 1945年(昭和20) 田畠、日本水泳連盟理事長に就任。 第二次世界大戦終結。
- 1946年(昭和21) 金栗、発足した熊本県体育会(現・熊本県体育協会)の初代会長に就任。
- 1947年(昭和22) 金栗賞朝日マラソン(福岡国際マラソンの前身)が熊本で開催。金栗がスター。
- 1948年(昭和23) 田畠、日本水泳連盟会長に就任。ロンドン大会の日程に合わせて全日本選手権開催。
戦後初の第14回ロンドン大会開催。日本は招待されず。
- 1952年(昭和27) 田畠、ヘルシンキ大会で日本選手団団長を務める。 第15回ヘルシンキ大会開催。
- 1956年(昭和31) 田畠、メルボルン大会で日本選手団団長を務める。 第16回メルボルン大会開催。
- 1959年(昭和34) 田畠、東京オリンピック組織委員会の事務総長に就任。 1964年のオリンピック、東京開催が決定。
- 1960年(昭和35) 第17回ローマ大会開催。
- 1961年(昭和36) 田畠、東京五輪組織委員会事務総長に就任
- 1962年(昭和37) 田畠、東京五輪組織委員会事務総長を解任
- 1964年(昭和39) アジア初のオリンピック、第18回東京大会開催。
- 1967年(昭和42) 金栗、ストックホルム大会55周年記念式典に招待され、55年越しのゴールを果たす。
- 1971年(昭和46) 田畠、日本体育協会副会長に就任。
- 1973年(昭和48) 田畠、日本オリンピック委員会(JOC)会長に就任。
- 1983年(昭和58) 11月、金栗四三死去(享年92歳)
- 1984年(昭和59) 8月、田畠政治死去(享年85歳)
- 2004年(平成16) 第80回箱根駅伝から、最優秀選手に贈られる「金栗四三杯」新設。

当時の日本オリンピックメダリスト (1936年~1968年)

■1936年 ベルリン大会

- 【男子陸上】 **金** 田島直人 (三段跳び) / **孫** 基楨 (マラソン) **銀** 原田正夫 (三段跳び) / **西** 田修平 (棒高跳び)
銅 田島直人 (走り幅跳び) / **大** 江季雄 (棒高跳び) / **南** 昇竜 (マラソン)
- 【男子競泳】 **金** 寺田登 (1500m 自由形) / **葉** 室鉄夫 (200m 平泳ぎ) / **遊** 佐正憲・杉浦重雄・田口正治・新井茂雄 (800m リレー)
銀 遊佐正憲 (100m 自由形) / **鵜** 藤俊平 (400m 自由形)
銅 新井茂雄 (100m 自由形) / **牧** 野正蔵 (400m 自由形) / **鵜** 藤俊平 (1500m 自由形) / **清** 川正二 (100m 背泳ぎ) / **小** 池禮三 (200m 平泳ぎ)
- 【女子競泳】 **金** 前畠秀子 (200m 平泳ぎ) **芸術** **藤** 田隆治 (絵画) / **鈴** 木朱雀 (水彩)

■1952年 ヘルシンキ大会

- 【男子競泳】 **銀** 鈴木弘 (100m 自由形) / **橋** 爪四郎 (1500m 自由形) / **後** 藤暢・鈴木弘・谷川禎次郎・浜口喜博 (4×200m 自由形リレー)
- 【男子体操】 **銀** 上迫忠夫 (徒手) / **竹** 本正男 (跳馬) **銅** 上迫忠夫 (跳馬) / **小** 野喬 (跳馬)
- 【男子レスリング】 **金** フリースタイル 石井庄八 (パンタム級) / **銀** 北野祐秀 (フライ級)

■1956年 メルボルン・ストックホルム大会

- 【男子競泳】 **金** 古川勝 (200m 平泳ぎ)
銀 山中毅 (400m 自由形) / **山** 中毅 (1500m 自由形) / **吉** 村昌弘 (200m 平泳ぎ) / **石** 本隆 (200m バタフライ)
- 【男子体操】 **金** 小野喬 (鉄棒)
銀 小野喬 (個人総合) / **相** 原信行・他5名 (団体総合) / **相** 原信行 (徒手) / **小** 野喬 (あん馬) / **久** 保田正躬 (平行棒)
銅 久保田正躬 (つり輪) / **竹** 本正男 (つり輪) / **小** 野喬 (平行棒) / **竹** 本正男 (平行棒) / **竹** 本正男 (鉄棒)
- 【男子レスリング】 **金** フリースタイル 笹原正三 (フェザー級) / **池** 田三男 (ウェルター級) **銀** 笹原茂 (ライト級)

■1960年 ローマ大会

- 【男子競泳】 **銀** 山中毅 (400m 自由形) / **大** 崎剛彦 (200m 平泳ぎ) / **石** 井宏・福井誠・藤本達夫・山中毅 (4×200m 自由形)
銅 大崎剛彦・清水啓吾・富田一雄・開田幸一 (4×100m メドレー) **女子競泳** **銅** 田中聰子 (100m 背泳ぎ)
- 【男子体操】 **金** 相原信行・他5名 (団体総合) / **小** 野喬 (跳馬) / **相** 原信行 (徒手) / **小** 野喬 (鉄棒)
銀 小野喬 (個人総合) / **竹** 本正男 (鉄棒) **銅** 鶴見修治 (あん馬) / **小** 野喬 (平行棒) / **小** 野喬 (つり輪)
- 【男子レスリング】 **銀** フリースタイル 松原正之 (フライ級) / ウエイトリフティング 三宅義信 (パンタム級)
- 【ボクシング】 **銅** 田辺清 (フライ級) **射撃** **銅** 吉川貴久 (フリーピストル)

■1964年 東京大会

- 【男子陸上】 **銅** 円谷幸吉 (マラソン) **男子競泳** **銅** 岩崎邦宏・岡部幸明・庄司敏夫・福井誠 (4×200m 自由形リレー)
- 【男子体操】 **金** 遠藤幸雄 (個人総合) / **遠** 藤幸雄・他5名 (団体総合) / **早** 田卓次 (つり輪) / **山** 下治広 (跳馬) / **遠** 藤幸雄 (平行棒)
銀 鶴見修治 (個人総合) / **遠** 藤幸雄 (床運動) / **鶴** 見修治 (あん馬) / **鶴** 見修治 (平行棒) **女子体操** **銅** 相原俊子・他5名 (団体)
- 【男子レスリング】 **金** グレコローマンスタイル 花原勉 (フライ級) / **市** 口政光 (パンタム級) / フリースタイル 吉田義勝 (フライ級) /
上武洋次郎 (パンタム級) / フリースタイル 渡辺長武 (フェザー級) **銅** 堀内岩雄 (ライト級)
- 【ウエイトリフティング】 **金** 三宅義信 (フェザー級) **銅** 一ノ関史郎 (パンタム級) / **大** 内仁 (ミドル級)
- 【射撃】 **銅** 吉川貴久 (フリーピストル) **男子バレーボール** **銅** 池田尚弘・他11名 **女子バレーボール** **金** 磯辺サタ・他11名
- 【柔道】 **金** 中谷雄英 (軽量級) / **岡** 野功 (中量級) / **猪** 熊功 (重量級) **銀** 神永昭夫 (無差別級) **ボクシング** **金** 桜井孝雄 (パンタム級)

■1968年 メキシコシティ大会

- 【男子陸上】 **銀** 君原建二 (マラソン) **サッカー** **銅** 小城得達・他17名 **ボクシング** **銅** 森岡栄治 (パンタム級)
- 【男子バレーボール】 **銀** 池田尚弘・他11名 **女子バレーボール** **銀** 井上節子・他11名

「いだてん」スペシャルインタビュー

SUBARU陸上競技部監督

奥谷 亘 氏

一地道な努力で逆境をはね返す

日本代表選手から駅伝競争のトッププレーダーへ

一番になれない悔しさをバネに

好タイムに自信深める

病を克服し指導者の道へ

私は幼少時に体が弱かつたため、父親に勧められて早朝ジョギングをするようになったのが走ることに興味を持つたきっかけです。小学生の低学年までは運動競技で勝てる子供ではありませんでしたが、ジョギングを続いているうちに徐々に早く走れるようになり、5年生の時に全校マラソン大会で1位になりました。この時、勝てる喜びを感じ、さらに早く走るため練習に向きになり、力をつけていきました。

全国高校駅伝では、1年、2年の時は先輩が強く、出場機会がなくて悔しい思いをしますが、3年の時に3区を走り、チーム優勝に貢献します。しかし、4区、5区の選手は区間賞をとりましたが、私は外国人留学生に敗れ区間賞をとれずに一位だったのに、一位になれない悔しさが残りました。

1999年の東京国際マラソンに出場することができ、初マラソンを2時間11分24秒で走り、好タイムに自信を深めます。さらなる成長を目指して富士重工(現SUBARU)に移籍しました。

2006年の福岡国際マラソンで4位(日本人で1位)となり、自己ベスト記録を更新して、翌年の世界陸上大会男子マラソンへの出場が決まりました。ここで好成績を出せば北京オリンピックの出場が見えるという地元神戸が拠点で、地元企業ということもあり入社を決めました。ところが、入社直後から陸上部の運営が不安定で、拠点が福岡に移ることになり、それを機に積水化學に移籍します。積水の佐藤監督はチームを強くするためにハードな練習を課し、私は何とかついていき、徐々に強くなつたのです。

天国から地獄に突き落とされたようなものです。治療に専念した後、一般で東京マラソン2010に出場して4時間以上で完走し、選手の終わりを受け入れることができました。

継続して入賞できるチームづくり

ぐんまマラソン180日 プロジェクトへの参加

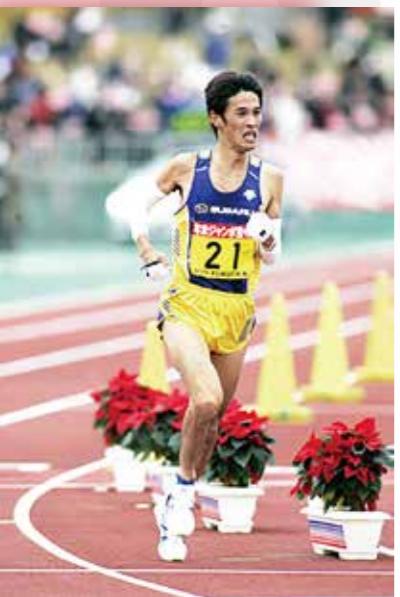
2009年にSUBARUのコーチに就任した当初は、チームを変えてやるとの強い意気込みで、練習メニューは自分で組み立て、強くなるための練習さえしていれば勝てると思っていました。実際に、2011年に監督に就任してからのニューヨーク駅伝は12位、6位、9位と上位にいました。しかし、その翌年から15位、25位、31位と成績は振るわず、悩みました。成績不振の原因を突き詰めると、選手の育成に特化していてもチームは強くならないことに気づきました。

監督の仕事は選手の育成、スカウト活動、対外交渉など、バランスよく底上げしていくことです。現在は監督に就任して9年が経過し、自分が育てた選手がコーチになります。また、会社からの理解を得て、チーム強化の仕組みづくりが出来つあります。今年のニューヨーク駅伝では、SUBARUが一時先頭に立つ姿を見せ、やればできること、という結果を示すことが出来ました。

優勝を狙うのはまだ先のことになると思いますが、継続して入賞(8位以内)できるチームづくりは十分可能と考えます。自分がいなくても実力のあるチームであり続けることが理想です。

これからも選手の育成に加えて、コーチなど後進の育成にしっかり取り組まなければならないと思っています。

群馬県太田市に本拠を置くSUBARU陸上競技部は平成13年(2001)の第45回大会に初出場し、1区を奥谷亘氏が走った。奥谷氏が監督に就任して初めての大大会(2012年第56回)で12位、翌年は6位で初入賞となり、来年の大会で入賞が期待される。



現役時代
奥谷 亘 氏

奥谷 亘(おくたに わたる)氏 略歴

所属 播磨中(兵庫)→西脇工高(兵庫)→ダイエー

サポートすることを目的としており、私をはじめ

SUBARU陸上競技部のスタッフが指導します。マラソンの普及という社会的な意義やSUBARUのファンづくりと、価値のある取り組みだと思っています。180日

で誰でもマラソンを完走できるかというと、そんなに簡単なことではないですが(笑)。

(令和元年五月二八日取材 聞き手:佐藤正彦(株ヤマト内部監査室長) 構成:木下直也(株ヤマト広報室長))

ニューヨーク駅伝とSUBARU陸上競技部

ニューヨーク駅伝(全日本実業団対抗駅伝競走大会)は、日本における実業団駅伝日本一を決定する競技大会。

第32回(昭和63年・1988年)から実施日が1月1日になり、群馬県で開催されるようになった。県庁を発着点に中・西毛から東毛を走り抜ける新春の風物詩となっています。

群馬県太田市に本拠を置くSUBARU陸上競技部は平成13年(2001)の第45回大会に初出場し、1区を奥谷亘氏が走った。奥谷氏が監督に就任して初めての大



群馬直美個展

開催期間 .. 令和元年8月24日(土)~9月27日(金)

開館時間 .. 午前10時~午後5時

下仁田ネギの一生と、ヤマトビオトープ園の葉っぱたち

会場 ..

ヤマト本社1階ギャラリーホール

入場無料

休館日 .. 土・日・祝日(9月21日(土)・22日(日)は開館)

シリーズ群馬の芸術家⑥

群馬直美

一枚の葉に命のまらめをを見つめる「葉画家」

元群馬県立近代美術館学芸員 染谷滋

ヤマト・ギャラリーで二度目の個展

群馬直美は、株式会社ヤマトの看板画家と呼べる存在だ。毎月発行されるヤマトネイチャーサークルのリーフレットには、近年その總てに、ヤマトのビオトープ園の植物をテーマとした作品や写真、文章を寄せているからだ。

従つて、そのリーフレットを愛読し大事にファイルしている人たちは、群馬直美はすでに良く知る存在だと思う。ヤマトでは二〇一五(平成二七)年の六月に「群馬直美の野菜たち『いのちのいろ』展」を開催した。前橋市内では初めての個展で、大根や玉ねぎなどの野菜がテーマとなつた約五〇点の作品が、制作過程で書かれた絵日記の抜粋と共に展示された。

ヤマトとの縁はその時以来で、ビオトープ園での制作はその翌年から始まつたが、この展覧会がきっかけとなつて上毛新聞社の「オピニオン21」の執筆者にも選ばれ、県内に広く知られるようになつた。

今回の個展では、そのお馴染みのリーフレット原画が一挙初公開される。ヤマトでの展示が何よりも相応しい舞台であり、展示を見終えてから取材地であるビオトープ園を散策するのも楽しいだろう。

生い立ち、画家としての岐路

群馬直美は一九五九(昭和三四)年八月二〇日に高崎市並木町に生まれた。群馬県人なら必ず聞きたくなることだが、「群馬直美」は間違いなく本名である。

高崎市立第四中学(現在の並木中学)から農大二高に進学。絵は好きだったが理系クラスで美術部にも無縁だった。それでも東京造形大学を受験したのだから、よほど絵が好きだったのだろう。その造形大三年生のとき、人生を決定づける出来事があった。

「世界で一番美しいもの」と自信をもつて制作した作品を下宿の軒下に置いたところ、子供が怖がって泣くので撤去して欲しいと大家さんから言わされたのだ。極彩色の無数の眼が全身に貼り付いた人型オブジェだったと言うからさもありなんだ。

この事で自分の感覚に自信を失い極度のスランプに陥る。何も作れない日々が何ヵ月も続いたある日、新緑の街路樹の下をジョギングしていて、ふと見上げた木の葉の美しさが人生的の岐路となつた。

「四ヵ月ぶりに心にすーと入り込んできた感覺。頭の中でもつれていた糸が瞬のうちにほどけた。この美しさを伝えたい」

このときから葉っぱをモチーフとした制作が始まつた。

葉画家の誕生

群馬直美は自分自身を「葉画家」と呼ぶ。これまでなかつた名称で、彼女だけのものだ。一枚の葉だけを克明に原寸大で描写する。よく似たスタイルにボタニカルアート(植物画)がある。まだ写真が発明される以前から植物図鑑などに使われたもので、非常に古い伝統があるのだが、群馬直美の作品との決定的な違いは、その目的にあると言えるだろう。

ボタニカルアートは植物の姿を正確に写し取ること自体に目的があるのだが、群馬直美の場合は一枚の葉に宿る生命を写し取ることに主眼が置かれる。それは虫食いだらけの葉でも、枯れて命尽きようとしている葉でも同じで、葉の一枚一枚に個性を見出し、その葉が歩んできた生涯に想いを馳せながら筆を取る。

とは言え、葉をテーマにしようと思いつつから、今のスタイルにたどり着くまでは糺余曲折があつた。走るのが好きだった群馬直美は、一九八三(昭和五八)年のロサンゼルス・オリンピックで聖火ランナーとして渡米したが、そこで見たアメリカの木の葉が肉厚であり葉脈がはつきりしなかつたのも、日本で葉を描く事に自信を与えた。

決定的だったのは、テンペラとの出会いだ。油絵よりもはるかに細密に描けるこの技法が、どんな細部も見落とさず、写し取る現在のスタイルを生んだ。一九九一(平成三)年五月のことだ。

世界に認められた葉画家

最近では葉っぱだけでなく野菜にまでモチーフを広げた群馬直美だが、そのきっかけは母校の農大二高から頼まれた作品に、思い付きで大根を描き込んだことらしい。言うまでもなく「大根踊り」は母校の伝統だからだ。

前回のヤマトの個展会場では下仁田ネギとの運命的な出会いがあった。以来数年がかりで下仁田ネギの一生を連作し、何とネギを表現したダンスまで披露した。

この連作六点は、今年の七月、ロンドンで開催された王立園芸協会(RHS)ボタニカルアート展に出品され、最高賞を受賞する快挙を成し遂げた。RHSボタニカルアート展は歴史の古い権威ある展覧会で、出品を許可されるだけでも厳しい審査がある。そこで最高賞受賞は、間違いく世界が認めた証拠だ。

今回のヤマトの展示では、その受賞作も展示される。故郷に锦ならぬ下仁田ネギを飾るわけだ。

葉画家としてだけでなく執筆や創作ダンスと活動の幅を広げる群馬直美。次はどんな展開を見せてくれるのだろうか。



4月 ネギの花 ©Naomi Gumma
下仁田町馬山・大澤貴則さんの畑にて
紙/テンペラ size:1025mm×560mm



12月 収穫ネギ ©Naomi Gumma
下仁田町馬山・大澤貴則さんの畑にて
紙/テンペラ size:756mm×561mm

ツバキの実 ©Naomi Gumma
ヤマトビオトープ園にて 2019.7.30
紙(ファブリアーノ・エキストラホワイト極細)/テンペラ
size:335mm×245mm
ヤマトネイチャーサークル掲載

群馬直美 <https://www.wood.jp/konoha/>



高崎市生まれ。一九八二年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、一九九一年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』群馬直美の木の葉と木の実の美術館』他。東京都立川市在住。

株式会社ねぎしフードサービス様

本社・東京都新宿区

「牛たん」「とうろ」「麦めし」

株式会社ねぎしフードサービス様は新宿、渋谷など都心部を中心に「牛たん とろろ 麦めし ねぎし」を40店舗展開しています。ねぎしの定食は「牛たん」とろろ、麦めし」それぞれが主役で、女性や高齢者にも食べやすいことだわりの食材でおいしさを提供しています。このたび、同社では生産能力増強のため、埼玉県狭山市に新工場を建設しました。(株)ヤマトは、新工場の機械・冷蔵設備工事を担当しました。



建物外観完成イメージ(3DCG)



施設概要

工事名称	株式会社ねぎしフードサービス
所在地	埼玉県狭山市大字下広瀬7-67-13
延床面積	2,974 m ²
設計・監理	株式会社創元設計
施工建築	岩堀建設工業株式会社
機械冷蔵設備	株式会社ヤマト
電気設備	株式会社ヤマト・イズミテクノス
空調設備概要	エアコン60台・外調機3台・ファンフィルター9台
衛生設備概要	上水受水槽、井水受水槽・蒸気ボイラー・エアコンプレッサー・冷水装置
冷蔵設備概要	冷凍・冷蔵機器14系統
竣工	2019年5月



お客様
インタビュー

株式会社ねぎしフードサービス 執行役員製造部長 山下 博人 様

ねぎしは、働く仲間の幸せを追求することを第一に考えています。お客様を大切にして、業績を伸ばし、百年続く企業をつくることが目標となつています。安心して長く働くことができ、やりがいを感じながら成長できる会社を追求しています。

品質へのこだわりは強く持っています。どんなにきれいなお店で接客が良くて、おいしくなければなりません。牛タンはオーストラリアとアイルランド産を使っています。焼き肉店はアメリカ産を使うケースが多いのですが、アメリカ産は若干脂が強いので、ねぎし風のさっぱりとしたおいしさにこだわっています。

今回新設した狭山工場では、経営の効率化のために機械化に取り組みました。牛タンは1日に約数十本処理します。牛タンを機械でスライスする際に、手で切るのと同様かそれ以上の品質を維持するのにこだわりました。スライスする刃の精度や牛タンの解凍時間など、2年以上試行錯誤を繰り返しました。飲食店は競争が厳しいので、常に品質の高さを追求していかないと、お客様から見放されてしまいます。

おいしさにこだわると、素材、産地、栽培方法、飼育方法等を追求していくことになり、厳選した生産者と深いお付き合いをしていきます。たとえばお米ならば、

当社の社員が田植え、稻刈り等の農作業に研修で出向いています。毎年約40名が交代で現地に行っており、全社員が3~4年に1回は参加する形です。ところは千葉県多古町産の大和芋で、農家さんと直接つながりを持ち、毎年の収穫祭に参加して交流を深めています。大和芋は難に扱うと皮がむけたり折れたりするので、収穫体験があるとお店で大切に扱うようになるというプラス効果もあります。付け合わせのおみ漬け(お新香)と味噌なんばんは、山形県庄内地方の契約農家で栽培しており、2年以上かけて漬け方などのテストを繰り返し、お客様に提供しています。近頃は食材の直や契約栽培を採り入れる外食チェーン店が増えていますが、ねぎしは10数年前から手がけています。安定して良質な食材を調達するための努力を続けています。

現在、「牛たん とろろ 麦めし ねぎし」は40店、豚肉の店「じろかつ＆ロールキャベツ ねぎし」が1店で、いずれも新宿の本社から30分以内に立地しています。外食や小売店の出店では、ドミニナント戦略というものがあり、一定の範囲に集中して出店したほうが物流や人員配置、教育、認知度などメリットが大きい。このメリットを高めるために、商圈は新宿から30分に絞り込んでいます。また、ねぎしでは外国人の採用を10年以上前から進めており、現在では2割以上を占めます。早い段階から、外国人がいなければお店が成り立たないことを見越していたのです。外国人の従業員はねぎしへの満足度が高く、「働く仲間の幸せを追求する」経営を実践しています。

